

第40回 日本社会精神医学会



コロナ禍における地域移行支援の現状
—岡山市こころの健康センターの実績から—

岡山市こころの健康センター
○木本 達男 作野 祐子 松本 奈乙美 藤田 綾奈
小林 和子 山口 智絵 太田 順一郎

-1-

本発表の目的

- 岡山市こころの健康センターでは、平成22年度から長期精神科病院入院患者への地域移行支援を行ってきた。
- 令和2年2月頃から新型コロナウイルスが流行し、従来通りの支援が行えず、対応に苦慮するケースが増加した。
- 現状を把握し今後の対策を講じるために、当センターの支援実績の変化を比較分析し、コロナ禍における地域移行支援への影響を明らかにする。

-2-

岡山市こころの健康センター

- 平成21年、岡山市が政令市に移行したことで岡山市に設置
- スタッフ（ ）内は会計年度職員数
精神科医 1、保健師 6（3）、心理職 4（2）
精神保健福祉士 6（4）、事務職 8（4）
- 取組み
 - 精神障害者地域支援システム整備事業
 - ①長期精神科病院入院患者の退院支援
 - ②地域で生活する未治療・治療中断精神障害者への治療的介入と生活支援
 - 児童思春期精神保健対策事業
 - 依存症対策推進事業
 - 地域自殺対策推進センター運営事業
 - ひきこもり地域支援センター運営事業

精神医療審査会
精神保健福祉手帳
自立支援医療

-3-

長期精神科病院入院患者の退院支援の概要

内容：市内精神科病院の入院者に訪問し、退院を目指して支援する。

対象者：精神科病院入院中の精神障害者

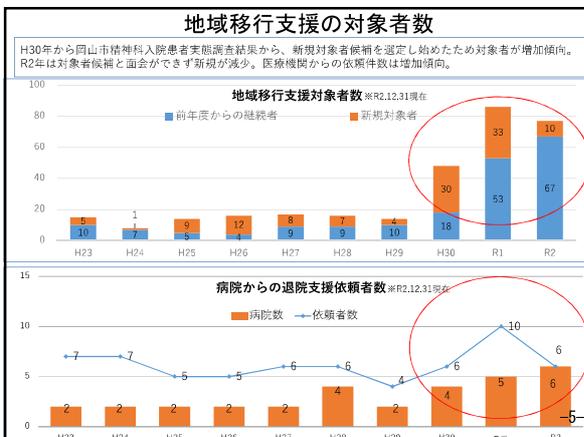
★H29年から毎年、市内精神科病院に対して「岡山市精神科病院入院患者実態調査」を実施

その結果から新規支援対象者をH30年～リストアップ

病院からの依頼
↓
入院者の状況に応じて支援

個別支援（個別面談、外出支援等）やグループワーク
地域交流会などによる退院意欲の喚起の取組
精神科病院と地域支援事業所との地域移行支援連絡会の開催等

-4-



地域移行支援の個別支援回数

支援回数もH30年度から増加傾向にあったが、R2年度は訪問外出同行支援が激減している。一方で電話や手紙による支援は増加している。また、R2年度はWebを利用した面談も実施した。

■地域移行支援の支援 ※R2.12.31現在

年度	対象者数	支援回数（延）	電話手紙	訪問外出同行	機関相談	Web面接
H29	14	579	115	187	277	-
H30	48	934	127	421	386	-
R1	89	1694	147	745	949	-
R2	77	1053	216	126	711	2

■地域移行支援の支援内容別 実人数 ※R2.12.31現在

年度	電話手紙（実）	訪問外出同行（実）	機関相談（実）	Web面接（実）
H29	13	14	14	-
H30	17	46	45	-
R1	20	82	86	-
R2	51	23	66	2

-6-

第40回 日本社会精神医学会

地域移行支援におけるその他の取組

■**精神障害者地域交流会** ※R2.12.31現在
精神科病院の入院者と地域で生活している精神障害者や支援者等と交流することで退院後の地域生活のイメージづくりや意欲の喚起を目指し実施

年度	開催回数	参加者数(延)
H30	3	57
R1	2	23
R2	0	0

■**精神障害者地域移行支援連絡会** ※R2.12.31現在
精神科病院の支援者と、地域支援事業者所の支援者を対象として円滑な連携を促進することを目的に開催

年度	開催回数	参加者数(延)
H30	4	101
R1	3	88
R2	0	0

-7-

地域移行支援による退院者数(H22～R2.12末)

退院者数の推移
■年度ごとの退院者数 ▲累計退院者数

年度	年度ごとの退院者数	累計退院者数
H22	5	5
H23	4	9
H24	3	12
H25	7	19
H26	5	23
H27	7	28
H28	5	33
H29	4	37
H30	5	42
R1	5	47
R2	8	55

■**退院までの支援期間**

区分	人数	割合
6ヶ月未満	12人	21.8%
6ヶ月以上1年未満	18人	32.7%
1年以上2年未満	14人	25.4%
2年以上3年未満	6人	10.9%
3年以上4年未満	2人	3.6%
4年以上5年未満	1人	1.8%
5年以上	2人	3.6%
合計	55人	

■**退院先**

区分	人数	割合
アパート	25人	45.5%
自宅	10人	18.2%
宿泊型自立訓練施設	5人	9.1%
高齢者施設	9人	16.4%
グループホーム	5人	9.1%
看護施設	1人	1.8%
合計	55人	

-8-

地域移行支援による退院者(R2年度の内訳) ※R2.12.31現在

R2年度は12月末までに8人が退院しすべて、当センターの地域支援（地域定着）の利用開始をした。R2年度に支援を開始したのは2名でいずれも病院からの依頼で、6か月未満の支援機関で退院した。それ以外の6名についてはR1年度の新型コロナウイルスが流行をする以前に支援開始した者であった。
3年以上の入院後に退院した4名のうち3名が調査結果によって支援開始した者であった。
なお、退院者の中には感染症拡大予防のため外泊することなく退院した者もいた。

■**退院先**

区分	人数	割合
アパート	5人	62.5%
自宅	3人	37.5%
合計	8人	

■**退院までの支援期間**

区分	人数	割合
6ヶ月未満	2人	25%
6ヶ月以上1年未満	2人	25%
1年以上2年未満	3人	37.5%
2年以上3年未満	1人	12.5%
合計	8人	

■**支援開始の経緯**

区分	人数	割合
調査結果	3人	37.5%
病院依頼	5人	62.5%
合計	8人	

■**入院期間**

区分	人数	割合
6ヶ月以上1年未満	2人	25%
1年以上3年未満	2人	25%
3年以上5年未満	2人	25%
5年以上10年未満	2人	25%
合計	8人	

-9-

考察①

○ 新型コロナウイルスの流行に伴い、訪問外出支援が激減
→ 一方で
病院側（主治医等）が、こころの健康センターによる支援が必要であると判断した場合は、感染症予防に配慮した上で面会を継続することができた
→
病院側（主治医等）と日頃から地域移行支援の内容や意図を伝え、必要性を共有しておくことが重要、**信頼関係があれば支援継続は可能**
→
○ 電話や手紙による支援が増加、Webを活用した面会も実施
→
Web面会については遠隔にいる人とも対話が可能で退院支援に有効活用できる、電話や手紙も対象者のモチベーションの維持に活用
→
電話や手紙による支援についても許可をされないケースもあった。
Web面会が可能な病院は限られている
→
引き続きWeb活用の利点（コスト削減等）を精神科病院に伝える -10-

考察②

○ R2年度の退院者数12月末現在8名で、過去最高となっている
8名のうち6名が新型コロナウイルスの流行前から支援を開始
2名はR2年度に支援を開始し、6か月未満で退院をしている。
→
コロナ禍においても退院支援は可能。R2年度は前年度からの継続対象者があったため過去最高の退院者となった。今年度の新規対象者は減少傾向なので、**来年度以降の退院者数が減少する可能性がある**
→
○ R2年度の退院者のうち3年以上の入院者は4人で、そのうち3人が調査結果から支援対象とした者であった。
→
病院依頼によって支援対象とした者は、調査結果から支援対象とした者より入院期間が短い傾向がある。コロナ禍においては病院依頼以外の新規対象者は減少傾向にあるため、**今後長期間の入院者へ支援が行き届かない可能性**がある。
→
引き続き病院調査は継続し、新規対象者の候補を選定。Web面会の活用も含め、**精神科病院と新規対象者への支援方法について相談が必要**。
-11-

おわりに

当センターでは精神科病院への長期入院は人権侵害であると考え、センター創設当時から重要課題として解消に向け取り組んできた。その結果、築き上げることができた精神科病院との信頼関係や、継続支援をしている長期入院者の存在があり、R2年度は過去最高の退院者となった。
コロナ禍において、訪問や外出・外泊する機会は限られるが地域移行支援は工夫をすることで可能であった。
しかし、依然として多数の長期入院者がおり、決して解消された状況ではない。
現状の支援を続けることは、今後支援対象者や退院者の減少を招く可能性がある。
今後はWebを活用した面会などの推進や、精神科病院とのさらなる信頼関係の構築にむけて取り組む必要があると考えている。
-12-